

<本時の目標>

「表したい自分」を表現するために、「色」「筆致」についての具体的な工夫を考え、本制作の構想を行うことができる。

<授業のようす>

忌野清志郎さんの描いた自画像作品などを鑑賞した後、試作品として前時に「目」を部分的に描きました。本時は、それぞれが描いた試作品をもとに『「表したい自分」を表現するために「色」「筆致」をどのように工夫していけばよいか』をグループで話し合いました。話し合いでは、筆致を効果的に残すために、色に変化をつけながら塗っていくということや、加える水の量に注意することなど、色や筆致についての工夫できる点が確認されました。また、「表したい自分」（主題）をどのように考えたか、相手の考えを聞いた上で、自分なりのアドバイスをする子どもたちの姿が見られました。

グループ活動の後、本制作に向けて、工夫できる点を共有し、本制作の構想を行いました。友達からもらったアドバイスを反映させ、これから描く自画像について、「表したい自分」が表現できるように「色」「筆致」の工夫について具体的に構想していく子どもたちの姿が見られました。



<事後の教科別協議会で話題になったこと>

- ・「筆致」については実践や研究が進んでいない。そこに焦点をあてて取り組むことは興味深いですが、どのようにポイントを伝えていくか
- ・「自画像」は大変重い課題。自分を見つめ、自分と向き合うということにどれだけ向き合えるか、自分をさらけ出すことに抵抗もあるのではないか
- ・「目」という部分を試作し、共に創りあげるための手だてとするのはおもしろい試みだと思う。本制作に入ってからかかわりをもてる場面があるのではないか
- ・子どもたちが自分で考え、深い考察をもとに意見を言えている
- ・教師と子ども、子ども同士の関係の良好さが感じられた

など